

《担当者名》 児玉壮志 kodamas@hoku-iryo-u.ac.jp 桜庭聡

【概要】

根拠に基づく作業療法 (Evidence - based Occupational Therapy) を実践するためには、研究に関する基礎的な知識の修得が不可欠である。

本講義では、研究がなぜ必要なのか、その背景と意義を理解することを出発点とし、研究活動の一連のプロセス、研究デザイン、倫理的配慮、統計分析、論文作成や学会発表などの基礎的知識の獲得を目的とする。

【学修目標】

一般目標

作業療法分野における研究の重要性を理解し、研究遂行に必要な知識を修得し、卒業研究を遂行するための基盤を築くことを目標とする。

行動目標

1. 研究の必要性について説明できる。
2. 研究活動の一連のプロセスについて説明できる。
3. 研究の目的と意義について説明できる。
4. 研究における倫理的配慮について説明できる。
5. 統計分析を実施するために必要な知識について説明できる。
6. 研究デザインについて説明できる。
7. 研究成果の公表について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 作業療法における研究とは	根拠に基づく作業療法 (Evidence - based Occupational Therapy) や研究の必要性	児玉壮志
2	研究の過程1	研究活動の一連のプロセス、研究の意義や目的	児玉壮志
3	研究の過程2	研究における倫理的配慮	児玉壮志
4	統計分析1	尺度や確率をはじめとした統計の理解に必要な基礎知識	桜庭聡
5	統計分析2	実際の研究や論文で頻出する具体的な検定手法	桜庭聡
6	研究デザイン1	量的な研究デザイン	桜庭聡
7	研究デザイン2	質的な研究デザイン	児玉壮志
8	研究成果の公表	論文作成や学会発表の方法	桜庭聡

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

定期試験 100%

【教科書】

竹田徳則 他 著 「作業療法研究法」 医歯薬出版 2017年

【参考書】

山田孝 他 著 「作業療法研究法（第2版）」 医学書院 2012年

【学修の準備】

- ・ 予習として、各回の授業内容に関連する教科書を読むこと（80分）
- ・ 復習として、講義内容のふりかえりや、日頃から自身の関心のある論文に目を通すこと（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および作業療法科学の開発を
実践できる能力を身につけている。

【実務経験】

児玉壮志（作業療法士） 桜庭聡（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床経験に基づく研究疑問の生成や研究活動の展開について講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している